

# 平成29年度 病害虫発生予察情報

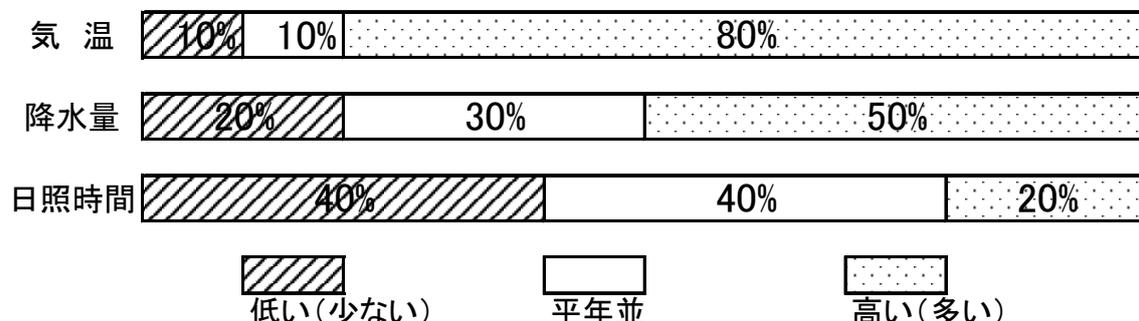
## 発生予報第6号（8月中旬～9月上旬）

平成29年8月4日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	やや少ない
		紋枯病	平年並～やや多い
		白葉枯病	やや少ない
		ニカメイチュウ	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや多い
		黒斑病	やや多い
果樹	ナシ	シンクイムシ類	平年並
		ハダニ類	やや多い
		カメムシ類	やや少ない～平年並
	カキ	うどんこ病	平年並
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや少ない～平年並

中国地方1か月予報(8月5日～9月4日・広島地方気象台8月3日発表)  
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



高温が続いており、水稻は全ての品種で収穫が早まると思われます。農薬のラベルに従い使用基準を遵守してください。

### A. 普通作物

#### 1) 水稻

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査(70ほ場)における葉いもちの発生ほ場率は、2.9%(平年13.7%)、発病株率は0.1%(平年5.4%)と少なかった。

② 「コシヒカリ」などの出穂期は平年に比べて早い。

③ 向こう1か月の気象は、本病の発生を特に抑制しない。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生ほ場率は、18.6%（平年18.4%）、  
発病株率は1.4%（平年3.0%）と発生量はほぼ平年並みであった。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）に助長的である。
- (3) 白葉枯病
- 予報内容  
発生地方 県内常習発生地帯  
発生量 やや少ない
- 予報の根拠  
① 7月下旬の発生量は少ない。  
② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。
- (4) ニカメイチュウ（第2世代）
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
① 7月31日までの予察灯における誘殺数は10頭（平年43.1頭）と平年並みである。  
② 8月上旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%（平年7.0%）、被害株率は0%  
（平年0.2%）で発生量は平年と比べやや少ない。  
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (5) ツマグロヨコバイ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
① 7月31日までの予察灯における誘殺数は103頭（平年209.5頭）と平年並みである。  
② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は6.0頭（平年13.3頭/50株）、発生ほ場率  
は43.2%（平年64.1%）で発生量は平年に比べやや少ない。  
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (6) セジロウンカ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
① 初飛来は5月23日に益田市の予察灯で確認された。その後、7月5日に出雲市の  
粘着誘殺灯でも誘殺が確認された。7月31日までの出雲市の粘着誘殺灯での誘殺  
数はやや少ない。  
② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は4.0頭（平年30.5頭/50株）、発生ほ場率は  
47.7%（平年75.0%）で発生量は平年に比べやや少ない。  
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (7) トビイロウンカ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
① 7月31日までの出雲市予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年と比べやや少ない。  
② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0.04頭（平年0.13頭/50株）、発生ほ場率  
は2.3%（平年4.3%）で発生量は平年並みである。  
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (8) コブノメイガ
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 平年並
- 予報の根拠  
① 7月31日までの出雲市予察灯、粘着誘殺灯への誘殺数は平年と比べやや少ない。  
② 8月上旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.3%（平年18.9%）、被害株率は0.1  
%（平年3.6%）で発生量は平年並みである。  
③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (9) 斑点米カメムシ類
- 予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 8月上旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、一部地点で発生が多くカメムシ類合計で4.5頭/20回振り(平成2.9頭)、発生地点率55.3%(平成57.9%)で発生量は平成と比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ② 6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で11.7頭/20回振り(平成7.0頭)、発生ほ場率は89.5%(平成64.7%)で発生量は平成に比べやや多い。主要種はアカスジカスミカメである。
- ③ 7月31日までの出雲市予察灯への誘殺数は149頭(平成157.9頭)と平成並みである。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

## B. 果樹

### 1) ナシ

#### (1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率11.3%(平成11.6%)であり、発生量は平成並みである。

② 向こう1か月の気象は本病の発生に助長的である。

#### (2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平成並

発生量 平成並

予報の根拠

① フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平成並みである。

② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

#### (3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生量 やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では寄生葉率39.0%(平成24.6%)でやや多い。

② 向こう1か月の気象はハダニ類の発生を特に抑制する要因とはならない。

③ クワオオハダニの発生ほ場が多くみられる。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。

#### (4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない~平成並

予報の根拠

① 予察灯(出雲市)での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は381頭(平成1201.7頭)で平成に比べ少ない。

② チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる7月6半旬までの誘殺数は243頭(平成1061.4頭)と平成に比べてやや少ない。

③ 向こう1か月の気象はカメムシ類の発生に助長的である。

### 2) カキ

#### (1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

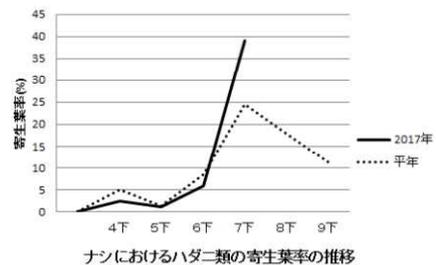
発生量 平成並

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率1.8%(平成5.1%)であり、発生量は平成並みである。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (2) カキミガ(第2世代)



予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

- ①第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。
- ②向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ①予察灯（出雲市）での7月6半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は381頭（平年1201.7頭）で平年に比べ少ない。
- ②チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる7月6半旬までの誘殺数は243頭（平年1061.4頭）と平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象はカメムシ類の発生に助長的である。

**島根県病害虫防除所**

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

[http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo\\_tech/byougaityuu/](http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/)